

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

「なんでだろう？」と言葉が出てくる時／品川区立伊藤保育園

子どもたちが、ダンゴムシやカタツムリ、アオムシやチョウチョなどの園庭にいる虫を、夢中になって探す姿は見られますか？「見付けられる」「触れる」「飼いたい・家に持って帰りたいと思う」「虫の違いや名前が分かってくる」など関わり方により、身近な生き物への思いや子どもの育ちを読み取ることができます。

この事例で保育者は、3歳児が生き物に関わる時の言葉に注目し、「なぜだろう」「どうして」という「科学する心」に繋がる気持ちを読み取っています。



○カタツムリ どうしちゃったの？／5歳児

いつものようにカタツムリの世話をしていると、土の上に白い球体を発見。

「これなんだろう」と、Aちゃんがつぶやくと、
「これ知ってる！卵だよ！図鑑に載ってた！」と、Bちゃんが図鑑を持ってきた。
一匹のカタツムリの体に卵が付いている。
「卵、産んでる！」とみんなで観察をした。

「卵がつぶれちゃう」とCちゃんが心配した。
そこで、卵を別の虫かごに移す。

図鑑を見て、2・3日でカタツムリの赤ちゃんが生まれることを知っていた子どもたちは、
「まだかな～」
と毎日楽しみに待っていた。

ある日の朝、割れている卵を発見する。
赤ちゃんが生まれず、残念そうな表情を浮かべていた。
子どもたちに「なんでだろう」「どうして？」という疑問も生まれた。

園庭には赤ちゃんが沢山いるのに・・・
虫かごと何が違うのか確かめにいく。

プランターの下にいた沢山の赤ちゃんを見て、「暗い所がよかったのかな」「葉っぱが足りなかったのかな」など、子ども同士で考えている。



✦ 考察

かたつむりの産卵を目の当たりにし、赤ちゃんの誕生を心待ちにしていた。残念ながら卵が孵ることはなかったが、「なんで赤ちゃんが出てこなかったんだろう」「園庭にはたくさんの赤ちゃんが生まれたのに・・・何が違うんだろう」とたくさんの「なぜだろう」「どうして」と思う気持ちが芽生え始めている。

無断転載を禁ず。引用する場合は下記を必ず明記願います。

「(C)公益財団法人 ソニー教育財団

ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」